「復活する」　2023年12月08日

そのため途方に暮れていると、輝く衣を着た二人の人がそばに立った。女たちが恐れて地に顔を伏せると、二人は言った。「なぜ、生きておられる方を死者の中に捜すのか。あの方は、ここにはおられない。復活なさったのだ。まだガリラヤにおられた頃、お話しになったことを思い出しなさい。人の子は、必ず罪人の手に渡され、十字架につけられ、三日目に復活する、と言われたではないか。」そこで、女たちはイエスの言葉を思い出した。そして、墓から帰って、十一人とほかの人皆に一部始終を知らせた。（ルカ24：4～9）

安息日には、労働禁止の戒めに従い、誰も動くことはできなかった。女たちは安息日が明ける週の初めの日をまんじりともしないで待った。その日の明け方早く、準備をしておいた香料と香油を持って、墓に急いだ。すると、墓を塞いでいた石が転がしてあったので、中に入ったところ、主イエスの遺体は見当たらなかった。途方に暮れていると、輝く衣を着た二人の人が側に立った。女たちが恐れて地に顔を伏せると、二人は、「なぜ、生きておられる方を死者の中に捜すのか。あの方は、ここにはおられない。復活なさったのだ。まだガリラヤにおられた頃、お話しになったことを思い出しなさい。人の子は、必ず罪人の手に渡され、十字架につけられ、三日目に復活する、と言われたではないか」と言った。輝く衣を着た二人は天使である。天使は、まず、「なぜ、生きておられる方を死者の中に捜すのか」と言った。主イエスは生きておられる。なのに、墓の中の死者を探しても見つけることはできない。天使は、「ここにはおられない。復活なさったのだ」と、復活されたことを告げる。そして、ガリラヤの宣教時代に、「人の子（メシア）は、必ず罪人の手に渡され、十字架につけられ、三日目に復活する」と言われたことを、思い出しなさい。最高法院の議員たち、ローマの総督ピラトによって十字架につけられ、三日目の今日、復活する。女たちは天使の言葉を聞き、ガリラヤで主イエスが語られた言葉を思い出した。主イエスは十字架の苦しみの後、息を引き取られたが、復活して生きておられる。女たちは驚愕と畏れの中、主イエスが生きておられると喜びに満たされた。

彼女たちは墓から帰って、十一人の弟子たちと主イエスに従っていた人皆に、墓での出来事と天使の言葉を告げた。これらのことを告げたのは、マグダラのマリア、ヨハナ、ヤコブの母マリア、一緒にいた他の女たちであった。しかし、使徒たちは彼女たちの語ることはまるで馬鹿げた話に思われ、信じようとはしなかった。ただ、ペトロは立ち上がって墓へ走り、身をかがめて中をのぞくと、主イエスの遺体を包んだ亜麻布しかないことを見届けた。ペトロは、女たちの言葉通りであった出来事に驚き、迷いながら家に帰った。

主イエスの復活は十字架と結びついた福音の核心であるが、その復活は、墓が空になっていたことであったと告げている。死者が復活することはあり得ない。しかし、主イエスは十字架の死を突き抜けた復活の命を神から与えられた。これを信じる時、主イエスの復活の命に与って、真に生きる者とされる。これが福音である。この福音、主イエスの復活を告げられたのは女たちで、彼女たちから復活の証言が始まった。ところが、当時の裁判では、女の証言は認められていなかった。女は軽視され、証言能力がないと見なされていたからである。女たちの主イエスの復活証言は、時代の価値観をひっくり返すことであった。キリスト教の核心をなす主イエスの復活は、否定されていた女の証言を出発にしている。主イエスの復活は人間の作った価値観を突き抜ける出来事であった。